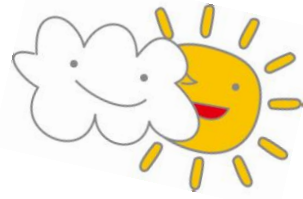


わかる！



認知症ケアマッピング

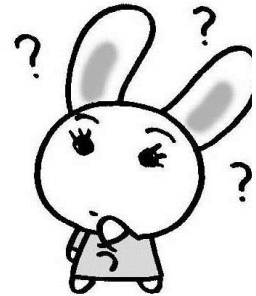
認知症ケアマッピングという言葉をはじめて
耳にされるみなさまにわかりやすくご説明いたします。



いつ頃はじまったの？

認知症ケアマッピングは、1980年代、故トム・キットウッド博士（英国）らによって、サービスを受ける側の立場からケアの質を把握するために、観察評価ツールとして開発されました。日本には、平成15年度より導入されています。英語ではDCMと略されています。

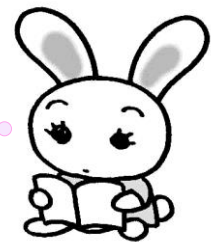
むずかしそう



ケアマッピングって？

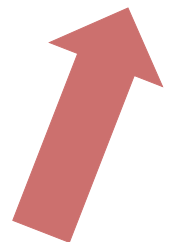
介護の現場から生まれ、英国・米国・ドイツ・オーストラリア・デンマーク・スイス・日本など世界13ヶ国以上で行われています。マッピングとは5分おきに認知症の人の行動・歩行・会話などの日常生活を分類された行動カテゴリーに基づき数値で記録し表にしていくことです。日本では、平成25年1月末現在、約800名のマッパー（記録者）が活動しています。

なるほど！用語の意味がわかれば、少しずつ理解できるわね。



基本の考え方は？

認知症は脳の変化だけでなく、さまざまな要素が影響しあいおこっています。その要素を考え、その人に合った介護が提供されているかを、認知症の人を詳細に観察しどのような状態かを見て判断しようとするものです。マッピングは業務中心でなく認知症の人が、周囲の人と関わりをもち、ご本人がその環境の中で愛されていると実感できるように、支援する人と共に行っていく介護を実践するために考案されました。このように「その人らしさ」を大切に尊厳が保たれたご本人を中心とした介護をパーソン・センタード・ケアといいます。



目的は？

従来の介護は業務中心の流れ作業でした。介護される人が歩んできた人生に合わせた「その人らしさ」を大切にする介護が求められています。マッピングは、ご本人の立場に立って観察することで、その人がどのようなケアを受けていて、どのような状態にあるかを知り、ご本人の可能性に着目することができます。その人の行動を批評するものではなく、その人の価値を高めることが目的です。



マッピングは認知症の人、支援する人のために行うのね。これからますます広がっていくことにより、みんなが笑顔で穏やかに暮らせる介護につながっていくといいですね。



記録はどのように行われ、活用するの？

- 生活の場に2～3人のマッパー（記録者）がお邪魔します。
※マッピングはおおむねおためしマッピング（2時間）とフルマッピング（6時間）で行われます。
- 認知症の人がどのような行動をしているかを観察し、23種類のアルファベットで表し、どういう状態か（よい/よくない）を数字（-5から+5）で記録します。
- 観察した記録結果をもとに表を作成します。
- 客観的に数値化された表の変化よりケアのヒントを得ます。
- 支援する側の思い込みから脱却し、観察を振り返ることにより、気づきを発見することで、よい点を共有して今後の介護の方針を決めることに活用します。

よい状態がたくさんあるとみんな安心ね。



よい状態とは？

- ご本人に身体的に不快がない。
- ご本人が心理的にくつろいでいる。
- ご本人が周囲とかかわりをもっている。
- ご本人に積極性や喜びの表情がある。など

関西地区の認知症ケアマッピングは DCM 関西交流会の主催で行われています。ホームページもみてくださいね。



こちらの事業所でケアマッピングを実施しております。

- 小規模多機能ホーム 萌の里 奈良
- 介護老人保健施設 奈良ベテルホーム 奈良
- 特別養護老人ホーム 和里（にこり） 奈良

大阪、京都、滋賀、兵庫、和歌山の事業所を募集中です。

推進：認知症介護研究・研修大府センター

NPO 法人 シルバー総合研究所

発行：DCM 関西交流会事務局 第 1 版

お問い合わせ先：DCM 関西交流会事務局 和里（にこり）内

〒635-0075 奈良県大和高田市野口 325 番 3

TEL.0745 (52) 0125/FAX.0745 (53) 0635

URL. http://www.nicori.or.jp/dcm_index.html